

(社) 全国大学体育連合近畿支部シンポジウム報告

熊本和正

標記シンポジウムが平成19年12月1日(土)に京都大学吉田南1号館にて開催されたので、その概要を報告する。今回のシンポジウムは「各大学の体育実技、スポーツ活動の現状と課題」をテーマとし、近畿支部の16大学から発表者を得た。最初に近畿支部長の小田伸午氏(京都大学)より、シンポジウムテーマの主旨説明があり、「大学設置基準の大綱化以来15年あまりが経過しましたが、各大学の体育実技、体育講義のあり方は様々な変容を遂げて今日に至っていると思います。今回、16校の大学からその変容の内容と現状および問題点と課題を発表していただき、今後の各大学の体育実技、スポーツ活動のあり方の方向性を考えるシンポジウムにしたいと思います。」とのことであった。

続いて、一校あたり10分(質疑応答5分)の発表をおこなった。科目名称については、生涯スポーツ、スポーツ方法論、健康科学の実践、スポーツ科学演習などが見受けられた。単位数も実技実習科目ではなく演習科目にしている例があった。どの大学もポピュラーなスポーツ種目だけでなく、ユニークな種目を用意していることが伺えた。また、実技種目を幾つかのサブコースに分類し、学生にわかりやすく示している例としては、テクニカルスポーツコース、スポーツコース、武道・護身術コース、ユニバーサルスポーツコース、シーズンスポーツコースなどがあった。レクリエーション・インストラクター、キャンプ・インストラクター、(財)日本体育協会公認各種指導員などの資格取得と結びつけている例が見られた。また、大学所在地の地理特性を活用した科目として登山をおこなっている大学もあった。各大学とも科目名称や授業内容をいろいろと改革してきていることがよくわかった。

シンポジウムの後、懇親会にてさらに情報交換がおこなわれ、有意義な会合であった。

今回のシンポジウムにて発表をおこなった大学は以下の通り。

〈体育専門コースのある大学〉

天理大、大阪教育大、武庫川女子大、びわこ成蹊スポーツ大

〈単科大学〉

聖トマス大学、奈良佐保短期大学、成安造形大学、京都外国語大学

〈私立総合大学〉

立命館大学、近畿大学、関西大学、京都学園大学

〈公立総合大学〉

大阪市大、京都大、京都工芸繊維大、東京大学(関東支部)

なお、東京大学は関東支部所属の大学であるが、昨年度まで東京大に勤務されていた神崎素樹氏が京都大に赴任されたので、今回お話を伺うことができた。